

おおさわ commons

羽沢小と大沢台小を第七中と隣接した天文台敷地北側ゾーンに移転し、**天文台の森の保全・再生を基本理念とした自然豊かな学習環境と天文台との連携の中で、義務教育学校の制度を活用した新しい小・中一貫教育校として魅力ある最先端の教育**を展開します。

また、小学校を含む施設全体を**地域の共有地「おおさわ commons」**と位置づけ、多世代が集う居心地の良い交流の場と、地域の防災拠点を創ります。

◆羽沢小と大沢台小の移転による効果

浸水予想区域に立地する羽沢小を安全な高台に移転することで、子どもたちの安全・安心な学校施設等の確保と防災の拠点化が図られます。

天文台敷地北側ゾーンは、大沢台小の学区内であることから、大沢台小についても移転することで、新校舎において天文台と連携した魅力ある教育を大沢地区すべての児童が享受できるようになります。また、第七中と隣接することで、これまで以上に一体的な小・中一貫教育が可能となる義務教育学校の制度を活用し、義務教育9年間の教育効果を高めることができます。

天文台の森の学校

天文台の豊かな自然、ゆとりと可変性のある教室など良好な学習環境の中で、これまで以上に一体感のある小・中一貫教育の実現と、学校3部制のモデルとなる「森の学校」を創ります。



図1: 出典 右下参照

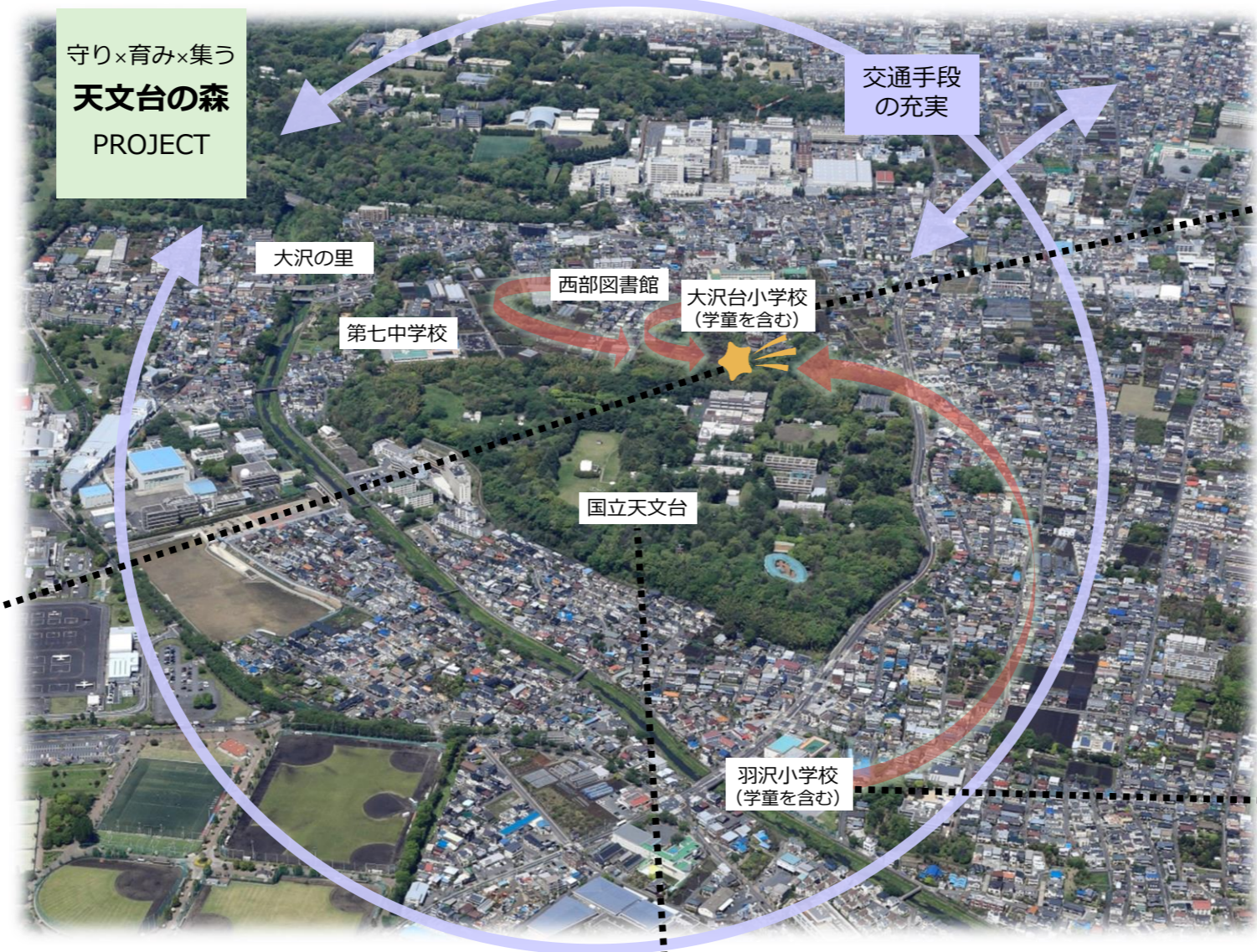
みんなが集うまちの拠点

学校を含む施設全体を地域の共有地（commons）と位置づけ、子どもから大人まで多くの世代が森の中に集う、居心地の良い交流の場を創ります。



図1: 出典 右下参照

守り×育み×集う 天文台の森 PROJECT



守り×育み×集う
天文台の森
PROJECT

交通手段
の充実

大沢の里

第七中学校

西部図書館

大沢台小学校
(学童を含む)

国立天文台

羽沢小学校
(学童を含む)

命と暮らしを守る防災拠点

地震・風水害等あらゆる災害に対応可能な防災の拠点と位置づけるとともに、在宅避難者に対する支援拠点としての機能の充実にも取り組みます。



天文台のあるまち三鷹

市民の願いのもと、天文台が三鷹に移転して100年。これからの100年も、自然環境や観測環境を大切にしながら、天文台とともに歩める関係を築きます。



出典: 国立天文台

地域の身近な交通手段

AIデマンド交通の拡充のほか、将来的には次世代交通手段の検討など、域外からも地域を楽しむまちを目指します。



出典: LIGARE

大沢台小の将来的な跡地利用

新たな三鷹の教育の場



図2: 出典 右下参照

誰一人取り残さない複線的な学びを支援するため、市内全域の子どもを対象に、子どもの個性に寄り添い、主体的で深い学びを実現する新たな教育と活動の場を検討します。

不登校や、特定分野に特異な才能のある児童・生徒が、通常のカリキュラムにない学びができる仕組みの構築について、天文台とも連携のうえ検討します。

羽沢小の将来的な跡地利用

買物不便環境の解消

スーパー等の生活利便性を満たす施設の誘致による買物不便環境の解消や、野川の景観を活かしたカフェ等を検討します。



一時避難場所機能の継続



将来的な土地利用転換後も、野川沿いの震災時の一時避難場所としての機能継続を検討します。

通学へのサポート



現状より遠くなる低学年児童向けには、スクールバス等の導入を検討するなど、通学をサポートします。

図3: 出典 右下参照

守り×育み×集う
天文台の森
PROJECT

天文台の森の保全・再生を基本理念とする「おおさわ commons」では、羽沢小と大沢台小を第七中と隣接する天文台敷地北側ゾーンに移転し、**小・中一貫した最先端の学びを実現する「天文台の森の学校」**を中心に、施設全体を地域の共有地（commons）と位置づけ、子どもから大人まで多くの世代が森の中に集う居心地の良いまちの交流の場と、地域の防災拠点を創ります。

※掲載の内容は現時点での目標イメージです。

おおさわ commons



出典：国土地理院撮影の航空写真

天文台の森の保全・再生

- 天文台の豊かな森を市民にとっても貴重な財産と位置づけ、次世代につなぐ保全・再生
- 自然豊かな憩いの場となる森の屋外空間



- 【背景】
- 自然災害への対応
 - 天文台敷地北側ゾーンの有効活用
 - 地域課題の解決と三鷹市の教育の方向性

- 【天文台敷地】
- 浸水予想区域に立地する羽沢小の移転
 - 大沢台小の移転による教育的な効果
 - おおさわ commonsを基盤とした地域の拠点化

天文台の森の学校

小・中一貫した最先端の学び

- 義務教育学校の制度を活用した一貫教育
- 天文台との連携による深い学び
- STEAM教育※1を通じた探究的な学び
- 自然環境を活かした情操と人格の形成



図1: 出典右下参照

ゆとりある未来の教室空間

- 快適でぬくもりを感じる生活空間
- 多様な学びを実現する学習空間
- 可変性や余裕のあるゆとりの空間



図2: 出典右下参照

地域と共有する特別教室

- 子どもたちの好奇心を育む特別教室
- 地域の利用を前提とした低層配置
- 子どもと大人の日常的な活動の場



図3: 出典右下参照

働きやすい教職員ラウンジ

- 広く、効率的な教職員室の執務環境
- 情報交換・共有・休憩の場としてのラウンジ空間の確保



図4: 出典右下参照

命と暮らしを守る防災拠点

施設全体が防災拠点

- 避難所運営を想定した体育館等の整備
- 良好な避難所生活を送る施設の工夫
- 車での避難も想定した施設整備
- 在宅避難者に対する支援拠点機能



カフェ等併設型の図書館

- 域外からも訪れたいくなる居心地の良い森の図書館
- 森を眺望できるカフェや多目的なワークスペースなどの併設
- 学校・星と森と絵本の家との連携等



図5: 出典右下参照

みんなが集うまちの拠点

※1 STEAM教育とは一般的には理系・文系と分断せず、分野横断的に学ぶ総合知を身に付ける教育であり、探究的学びを進めるうえで必要な問題を見つける力や解決する力をはぐくむ教育のこと。
Science：科学、Technology：技術、Engineering：工学・ものづくり、Art：芸術・リベラルアーツ、Mathematics：数学 の頭文字。

国立天文台周辺地域土地利用基本構想策定に向けた基本的な考え方（案） Q & A

Q1. なぜ、羽沢小を移転するの？

A1. 羽沢小は浸水予想区域内に立地することから、風水害時に避難所として開設できないなど防災上の大きな課題を抱えています。天文台敷地の安全な高台に、仮設校舎が不要な手法で移転先が確保できるこの機会を捉え、子どもたちの安全・安心な学校施設等の確保と、地域の防災拠点化を図ることが可能となります。また、自然豊かな学習環境でおおさわ学園の連携強化や天文台と連携した魅力あふれる教育を展開できます。さらに、将来的には、羽沢小の跡地を活用することで、地域の多くの皆様からご要望を頂いているスーパーマーケット等の生活利便性を満たす施設の誘致により、買物不便環境の解消を図ることができます。

Q2. 移転後はどんな小学校になるの？

A2. 移転後の新たな小学校は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的に実現できるよう、可変性や余裕のあるゆとりの空間を確保し、あらゆる空間が学びの場となるよう整備します。また、天文台の自然環境を活かした森の学校として、快適でぬくもりを感じる生活空間を提供します。天文台の自然環境や研究環境等の地域資源を活かした体験活動と STEAM 教育※1 の充実を図り、天文台と連携した魅力ある教育を推進します。また、第七中と隣接することで、義務教育学校の制度を活用した新しい小・中一貫教育が行えるため、義務教育 9 年間の教育効果を高めることができます。

※1 STEAM 教育とは一般的には理系・文系と分断せず、分野横断的に学ぶ総合知を身に付ける教育であり、探究的学びを進めるうえで必要な問題を見つける力や解決する力をはぐくむ教育のこと。
Science : 科学、Technology : 技術、Engineering : 工学・ものづくり、Art : 芸術・リベラルアーツ、Mathematics : 数学の頭文字。

Q3. なぜ、大沢台小も移転するの？

A3. 羽沢小の移転先となる天文台敷地北側ゾーンは大沢台小の学区内となります。新校舎で、天文台と連携した魅力ある教育を大沢台小の児童についても一緒に受けられるようにするため、大沢台小についても移転します。また、これにより、義務教育学校の制度を活用し、第七中を含めたおおさわ学園として小・中一貫教育をさらに進めた一体的な教育を実現します。なお、大沢台小・羽沢小は近い将来に 1 学年 1 クラスとなることが見込まれ、子どもたちが多様な人間関係の中で学校生活を送れる一定の集団規模が確保されることが望ましいと考えています。さらに、将来的には、大沢台小の跡地を活用することで、市内全域から通える、一人ひとりの個別最適な学びを支援し、個性に寄り添い、得意を究める新たな教育の場の設置を検討します。不登校や特定分野に特異な才能のある児童・生徒が通常のカリキュラムにない学びができる仕組みの構築を目指します。

Q4. 通学距離が遠くなる児童が心配です。

A4. 新しい小学校には、低学年児童向けのスクールバス等の導入を検討するなど、通学をサポートします。詳細は、今後学校や保護者の皆様のご意見もお聴きしながら、段階的にお示しをしていきます。

Q5. 「学校 3 部制」ってなに？

A5. 学校施設を学校教育の場（第 1 部）、放課後の場（第 2 部）、地域の多様な活動の場（第 3 部）として機能転換して活用する考え方です。学校施設を学校教育のためだけではなく、子どもたちの学びや遊びの場、居場所として、また、地域の大人にとっても身近な学びや集いの場として活用します。地域みんなの学校、地域の共有地（コモンズ）となる学校を目指します。

Q6. 卒業した母校の思い出を大切にしてほしい。

A6. 学び、活動し、卒業した母校の思い出を継承できるよう、地域の皆様のご意見を丁寧にお聴きしながら、新しい小学校や現小学校の将来的な跡地利用において、ソフト・ハードの両面から検討していきます。

Q7. 小学校等の整備で、天文台の貴重な緑が失われないの？

A7. 天文台の森は、市民にとっても貴重な財産であり、次世代に引き継ぐことが大切と捉えています。一方、旧官舎があった天文台敷地北側ゾーンは老木や枯木なども増えており、緑の維持管理の一部に課題がある状況です。今回、市が天文台と連携したまちづくりに取り組むことで、緑地の保全等に十分配慮した天文台敷地北側ゾーンの有効活用を推進します。施設整備により貴重な緑が失われないよう、保全・再生についてしっかりと対応してまいります。

Q8. 羽沢小は一時避難場所などに指定されているがどうなるの？

A8. おおさわコモンズの防災拠点化に取り組むとともに、羽沢小の将来的な跡地利用におけるスーパーマーケット等の生活利便性を満たす施設の誘致の中で、震災時の一時避難場所としての機能の継続を検討します。

Q9. 羽沢小が移転しない場合はどうなるの？

A9. 今回の取組は、防災、教育、買物等の日常生活、緑地の保全・再生等の総合的なまちづくりや都市経営の観点から、優先的に取り組むプロジェクトと位置付けています。仮に羽沢小の現地建替えを検討する場合は、今後多くの老朽化した公共施設の建替え等を計画的に進める必要があることから、建設年（昭和 56（1981）年開校）や建物躯体の劣化状況等を考慮すると、目標使用年数は概ね 80 年となり、建物の長寿命化を図ったうえで建替えを行うことになると考えられます。加えて、上述の総合的なまちづくりの効果が得られないほか、引き続き浸水予想区域に立地する状況となります。

Q10 今後の予定スケジュールは？

A10. 現在実施中の自然環境調査や遺跡試掘調査を踏まえ、最適な土地利用範囲を明確にしたうえで、今後策定予定の「土地利用基本構想」でお示しする予定です。

自然環境調査について

「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、国立天文台敷地の北側ゾーンを中心に、一連の森を形成している国立天文台敷地の南側ゾーン（隣接する東京大学の敷地を含む。）等において、動植物等の調査を実施しました。
 （調査期間：令和5年1～10月）

作業状況



植物相調査



猛禽類調査



昆虫類調査



大径木調査



国立天文台北側ゾーン (約4.78ha)
 調査範囲

主な注目される種

※ 北：国立天文台北側ゾーン
 南：国立天文台南側ゾーン

分類	種名	北	南
植物	シノブ	○	○
	アマナ		○
	ギンラン	○	○
	キンラン	○	○
哺乳類	ニホンアナグマ	○	○
鳥類	フクロウ	○	○
	センダイムシクイ	○	
爬虫類	ニホンヤモリ	○	○
	ニホンカナヘビ	○	○
昆虫類	ジャノメチョウ		○
	トゲアリ	○	
クモ類	キシノウエトタテグモ		○
猛禽類	オオタカ	○	○
	ツミ	○	○

※注目される種：
 環境省及び東京都レッドリストカテゴリ区分の掲載種

遺跡試掘調査について

国立天文台敷地の北側ゾーンは、「文化財保護法」の規定に基づく埋蔵文化財包蔵地となっています。今後の土地利用にあたり、遺跡の本掘調査が必要な範囲を明確にするため、遺跡の試掘調査を実施しています。
(調査期間：令和5年6～11月末(予定))

作業状況



主な出土状況

- ・遺物 石器礫群の破片 (旧石器時代)、陶磁器 (江戸時代)
- ・遺構 溝・箱状の掘込み (江戸時代)